

国語解答

| 4 | | | | | |
|-----------------------------|-----|--------|--------|-----|-----|
| 小計 4点 × 減点 /28 () - [] | | | | | |
| (6) | (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| ウ | エ | ② エ | ① 発 | を | 今 |
| 35 | 34 | 33 | 32 | 31 | 29 |
| | | | | 目 | の |
| | | | | 指 | 二 |
| | | | | す | 年 |
| | | | | | 生 |
| | | | | | と |
| | | | | | 全 |
| | | | | | 国 |
| | | | | | 大 |
| | | | | | 会 |
| | | | | | 一 |
| | | | | | 輝 |
| | | | | | が |
| | | | | | 言 |
| | | | | | い |
| | | | | | か |
| | | | | | け |
| | | | | | ア |
| | | | | | 29 |

④①書き抜き

②書き抜き

| 3 | | | | | |
|--------------------|--------|--------|-----|-----|-----|
| 小計 4点 × /32 () | | | | | |
| (6) | (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| ③ B | ② C | ① E | 秋 | ウ | 哉 |
| 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 22 |
| | | | | | イ |
| | | | | | E |
| | | | | | 21 |

⑤漢字以外不可

③書き抜き

| 2 | | |
|--------------------|--------|--------|
| 小計 2点 × /24 () | | |
| (3) | (2) | (1) |
| ① 天 | ① ウ | ① ウ |
| 17 | 13 | 9 |
| ② 口 | ② カ | ② オ |
| 18 | 14 | 10 |
| ③ 夢 | ③ イ | ③ ア |
| 19 | 15 | 11 |
| ④ 実 | ④ ア | ④ エ |
| 20 | 16 | 12 |

③漢字以外不可

| 1 | |
|--------------------|------|
| 小計 2点 × /16 () | |
| (5) | (1) |
| 針 | すじが |
| | き |
| | 5 |
| | 1 |
| (6) | (2) |
| 暴 | およ |
| れる | ぶ |
| | 6 |
| | 2 |
| (7) | (3) |
| 宗教 | ゆうび |
| | 7 |
| | 3 |
| (8) | (4) |
| 吸収 | あんたい |
| | 8 |
| | 4 |

(3) (別例) 「後輩たちとインターハイを目標にすること。」
 (別例) 「選手権出場を目標に2年生とがんばること。」
 ・「2年生と全国大会を目指す」にあたる内容がないものは0点。「2年生」は「後輩・2年生・一輝たち・光瀬たち・館山たち・丈助たち・おれたち」でも可。「全国大会」は「インターハイ・選手権・全国」でも可。「目指す」は「目標にする」でも可。ただし、「目指す」を「(全国大会に) 出場する」としているものは-2点。
 ・「今の(2年生)」「もう一回」「(全国大会出場を目標に) がんばる」「高校の・サッカーの(全国大会)」の有無は問わない。

解説

1 漢字の読み書き

2 慣用句・ことわざ・四字熟語

- (1) ①の空欄に入る「二の足を踏む」は、気が進まず、決断できずためらう様子、②「顔が立つ」は、名譽や立場が守られること、③の空欄に入る「目を細める」は、うれしそうな表情になること、④「手を染める」は、あることをし始めること、あることに関わりをもつことを表します。

- (2) ①とウは、困っているときに、さらに困ったことが起こること、②と力は、二つのものの違いが非常に大きいことのたとえ、③とイは、急いで物事に取り組みより、時間をかけた方が失敗せずに、かえって早く物事を成し遂げられるということ、④とアは、幼い頃に身についた習慣や性質は、年をとっても忘れたら変わったりしないということを表します。

3 短歌・俳句（窪田空穂／大田垣蓮月／藤原俊成／小林一茶／滝井孝作／長谷川素逝）

- (1) 字余りとは、俳句は五・七・五、短歌は五・七・五・七・七の定型の音数よりも多い句を指します。Eは「散り方の花を」が八音で、一音多くなっています。
- (2) 螢の姿になっても我が子たちに会いたいと願う母の思いをとらえましょう。アは「母の思いを知ることのない子供たち」、「ウは「母と会えるわずかな時間を楽しむ子供たち」がはっきりとは読み取れません。工は「螢をつかまえる母の姿」が歌に詠まれています。
- (3) 切れ字は、俳句などで意味の切れ目に使い、句の調子を整えたり感動を表現したりすることばです。主な切れ字に「や」「かな（哉）」「けり」「ぞ」などがあります。
- (6) Bは、山里に暮らす身の上には、自然の中で流れる音さえも聞こえなくなると、寂しさがつのる様子が描かれています。Cは、作者が、夜が明けようとする頃に桜を見ようと散策していると、花が雪のように舞う風景に出会ったときのことを幻想的に表現しています。Dは、緑の若葉が風に流されて白い壁に波のように押し寄せる様子を詠んでいます。Eは、盛りを過ぎて散り果ててしまいうような蓮の花を、茎が支えている様子を描くことで、生命のはかなさと力強さを詠んでいます。Fは、秋が深まり、枝にまばらに残る紅葉の最後の輝きを詠んでいます。

4 小説（川端裕人「太陽ときみの声」より）

- (2) 新キャプテンが一輝に決まった後、一輝が副キャプテンを指名しようとしたとき、他のサッカー部員たちの視線は一齐に文助に集まりました。部員の誰もが認めるほどに一輝と文助はよいコンビなのです。

- (3) 山田先輩が「一年、遅く生まれてれば、お前たち（＝今の二年生）ともう一回、全国を目指せ」と言ったことから考えます。

- (4) ② 傍線④の後に、館山が「（一輝は）へらへら笑って勝ち負けを気にしないってわけじゃなくて」と言っていることから、工の「勝ち負けを気にせず」が適切ではありません。

- (5) 一輝は、山田先輩の口から新キャプテンに自分の名前が挙がったことに戸惑っていましたが、館山や文助たちから背中を押されたことで、「キャプテンマークを握りしめ」と「体に力が満ちて」くるのを感じました。工が正解です。アは「チームを率いることに重圧を感じている」、「イは「キャプテンの役目を押し付けられて」自分自身が成長できる」、ウは「山田先輩に反発している」がそれぞれ誤りです。

- (6) 本文中で、館山は「いつも（チーム）全体を見ているし、冷静」な人物として描かれています。一方、一輝は「やってやるうぜー！インターハイも行くぜ！」と部員たちを鼓舞し、「みんな（＝部員たち）の目が輝いていた。目が燃え」るほどに部員の士気を高める熱血漢として描かれています。ウが正解です。アは「山田先輩が、部員たちの長所を伸ばすリーダー」、イは「一輝と文助が、サッカーの才能にあふれた選手」山田先輩と館山は、努力を重ねてレギュラーをつかんだ選手」、工は「文助が、無邪気な存在」一輝は、「非情な存在」がそれぞれ誤りです。